開会式で試合への期待を胸に整列する選手たち

あふれる闘志

少年サッカー新人戦 カガミカップ

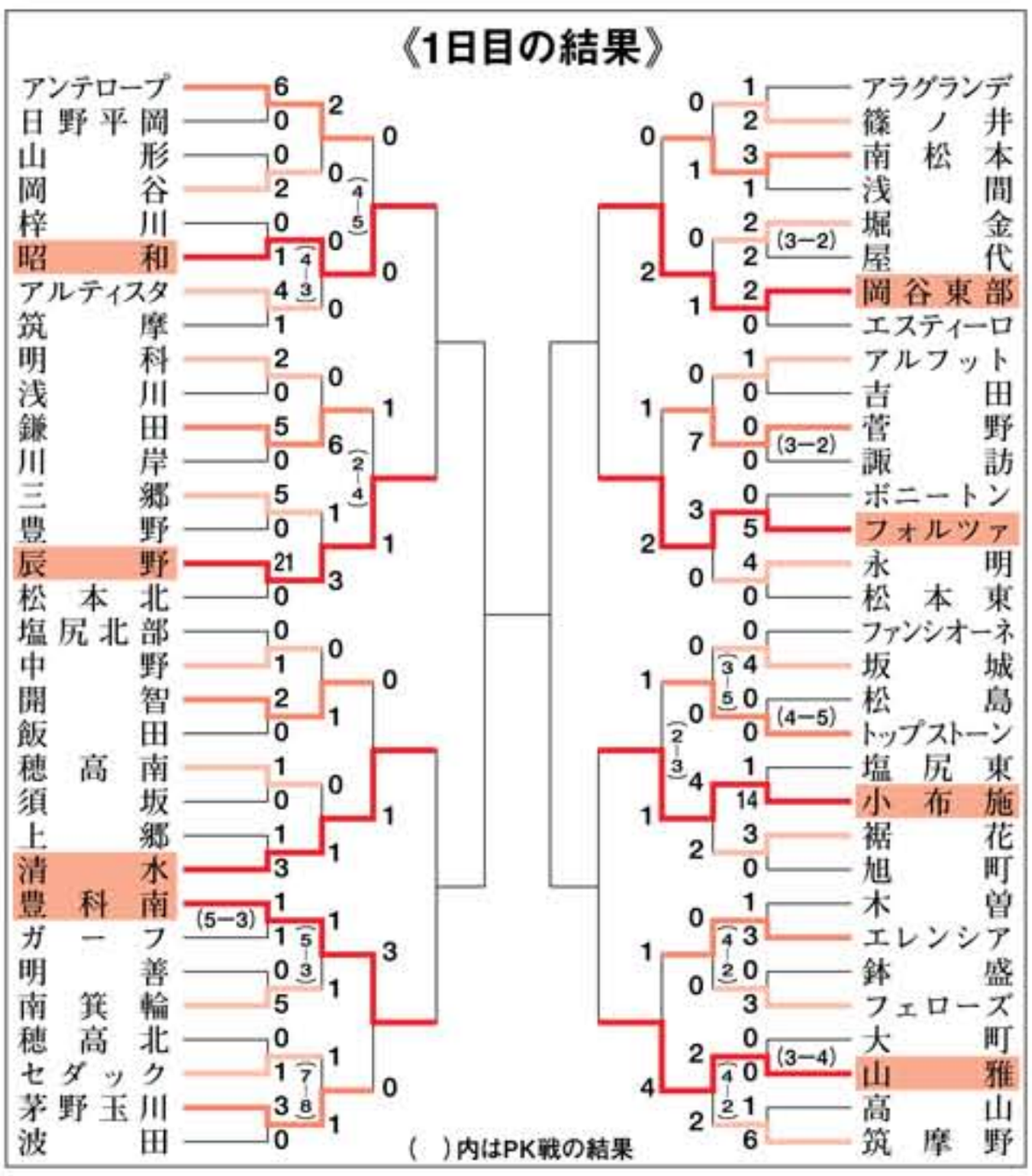
第25回市民タイムス少年サッカー新人戦カガミカップ初日の7日、開会式が吹奏楽の演奏を交えて盛大に行われ、各試合会場では新チームに移行したばかりの選手たちが闘志あふれるプレーを展開した。家族らも熱い声援を送った。

開会式では、大会長の新保力市民タイムス社長が「大会は今後1年間一緒に戦うチームによる新人戦。元気はつらつとしたプレーを期待している」と述べ、大会委員長の乾靖松本市サッカースポーツ少年団連合会会長が「大会を通じてのレベルアップを期待している。自分が何をすべきかを考えたサッカーをしてほしい」とあいさつした。選手を代表し、松本北サッカースポーツ少年団の小沢賢也主将（本郷小4年）が「練習の成果を生かして全力でプレーする」と宣誓した。

選手の入退場では、松本蟻ケ崎高校吹奏楽部の生徒36人が高揚感のある演奏を披露した。部長の2年・犬飼愛香さん（17）は「子供たちの励みになるよう気持ちを込めた」と笑顔を見せた。

試合では、選手たちが「動いて（ボールを）もらえ」「足を動かして」などと励まし合いながらボールを追い、攻守が次々と入れ替わる熱戦が展開された。前後半で決着がつかずPK戦にもつれ込む試合も見られた。グラウンド横では家族らが盛んに声援を送り、選手がゴールに迫る場面では母親たちから「キャー」と大きな歓声が上がった。（石尾 出）

《1日目の結果》



( )内はPK戦の結果

開会式で選手宣誓する松本北サッカースポーツ少年団の小沢賢也主将。しっかりとした口調で全力プレーを誓った

ゲーム形式で楽しみながらウオーミングアップしていた（南松本）

ボールを挟み譲らない攻防を見せる選手たち（松本エス・ティーロ-岡谷東部）

「選手の励みになれば」と開会式の入退場で盛大な演奏を披露した松本蟻ケ崎高校吹奏楽部

両チームが固唾をのんで見守る中でのPK戦（堀金-屋代）

各試合会場で選手の家族らが温かい声援を送った